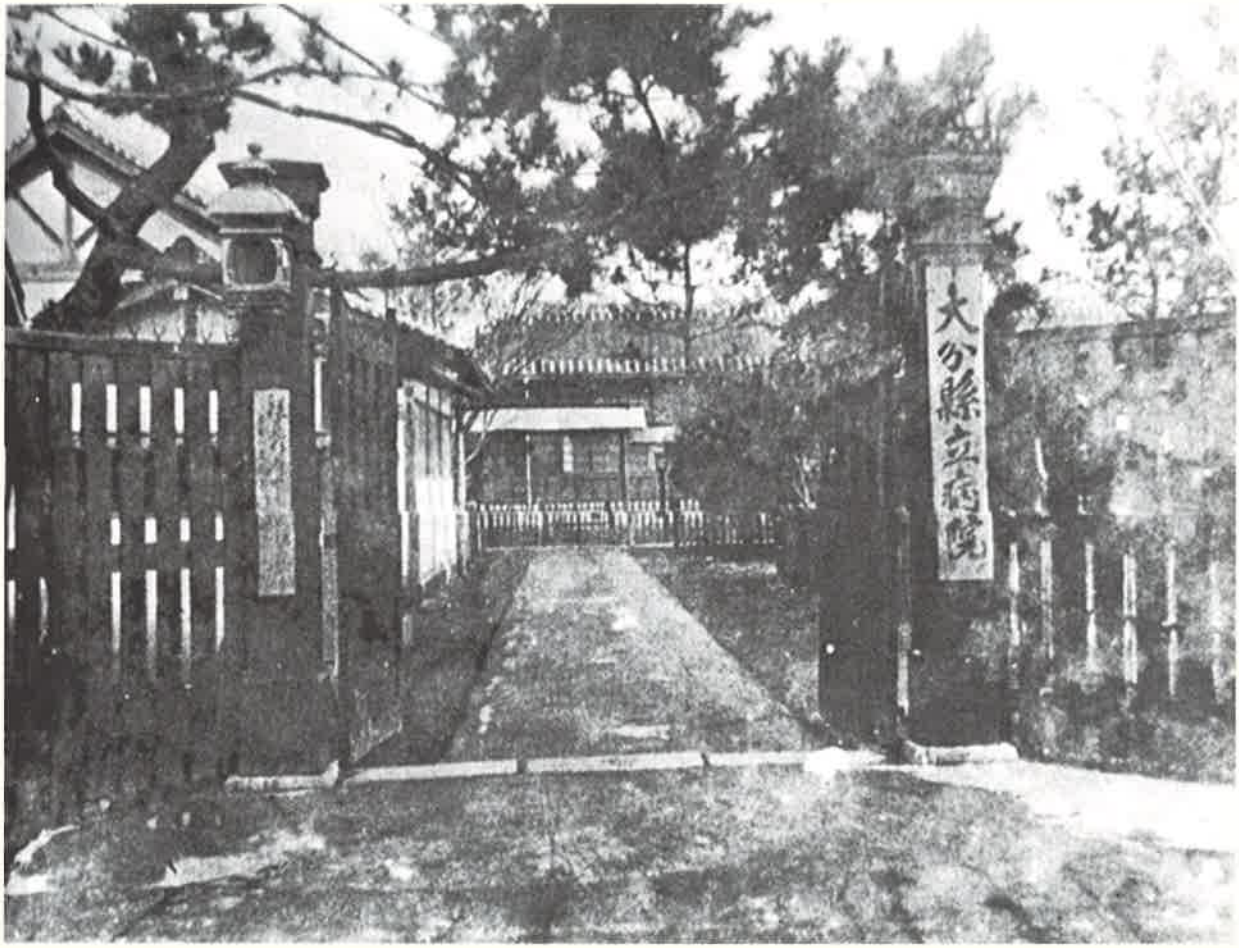
ARchives & ARchivist

「AR」はアーカイブスとアーキビストの頭２字をとり、歴史情報を守り未来に生かすさきがけの使命を表しています。

大分県公文書館だより
平成２０年３月　第１５号



設立当時の大分県立病院兼医学校　「風雪の一世紀／大分県立病院発行」

コレラの大流行と県立病院の開設

県立病院の設置計画は明治九年（一八七六）に初めて立てられました。第二代大分県長官（知事）である香川真一は県民に対して病院設置の必要性を説くなど、その重要性を認識していましたが、明治十年（一八七七）に勃発した西南戦争により、一時中断してしまいます。しかし明治十二年（一八七九）にコレラが大流行し甚大な被害が出たことで、県立病院の設置が急務となり、明治十三年（一八八〇）三月に開設（当時は医学校を併設）されました。

県立病院の初代院長には、秋田県出身で当時二五歳の鳥潟恒吉が任命されました。当時の県立病院は貧困家庭に対し、無償で治療していたため経営難等の理由により、明治二二年（一八八九）に一時閉鎖されてしまいます。しかし明治三二年（一八九九）に再び開設され、現在に至っています。

第二代 大分県長官（知事）香川真一

香川真一は初代の大分県令である森下景端と同じ岡山県出身です。尚、香川の回顧録に「余ト共ニ（森下は）郡宰ヲ勤務ス」と記されているので、二人は知り合いだった可能性があります。香川は明治四年（一八七一）に岩倉使節団に随行後、伊万里県（現在の佐賀県）参事や静岡県参事を歴任します。大分県には明治九年九月に大分県権令として赴任し（明治十一年七月に県令に昇進）、明治十二年十月に辞任するまでの約三年間、第二代大分県長官（知事）としてその任に当たりました。在任期間中はコレラの大流行や、勃発した西南戦争への対応にあたるなど多難でした。

香川真一

『縣治概略』 第24

虎列刺（コレラ）病予防法の布達

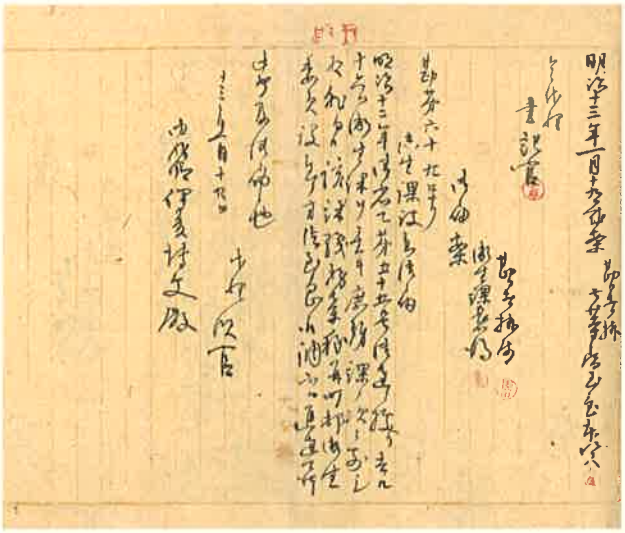
明治十二年（一八七九）、大分県で初めてコレラ患者が発生したのは南海部郡霞ヶ浦で、四月十七日のことでした。これを契機として全郡に蔓延してしまいます。コレラ発生に対し大分県は五月一日に、八ヵ条からなる虎列刺病予防法を布達し、県民に対し予防に努めるよう指示するなど、その対応に追われます。

コレラは同年九月に入ると終息に向かい、大分県は十一月二九日に「コレラ消滅宣言」を出しますが、患者数は五二七四人、病死者数は二九三三人にのぼり記録的な大流行となりました。

衛生課の設置

県内でコレラが猛威を振るった後、大分県は内務省の通達により、明治十三年一月に県庁内に衛生課を設置しました。前述した通り同年三月には県立病院が開設されています。この時には既に香川は県令を辞任し大分県を去っていましたが、病院建設費援助のため、百円（現在の約五〇万円）を大分県に寄付しています。

明治十二年以降もコレラは発生していますが、十二年ほどの大流行にはなっていません。これは県立病院と衛生課の存在が大きかったことが一番の要因と言えるでしょう。



『官省上申書　明治九年・明治十四年』

九州沖縄八県連合共進会

明治政府は、立ち後れた我が国産業の発達を促進するため、明治初年以来海外の万国博覧会に参加するとともに、国内でも産業技術興隆のための博覧会や共進会(産業技術交流のための展示会・集会)を各地で開催しました。

こうした国の殖産興業政策を受け、九州沖縄八県は連合して各県産業の進展を図るため連合共進会を開設し、明治十五年(一八八二)長崎で第一回目を開催しました。以来、各県を巡回し、大分県は明治二一年第六回目を初めて主催しました。

第一会場正門

第二会場正門

『大分縣協賛會報告書』より

第十四回(大分県二巡目)共進会の開催

大正十年(一九二一)には、三月十五日から六〇日間、大分県で二巡目となる第十四回九州沖縄八県連合共進会を主催しました。

工費七三万円をかけ新装なった大分県庁舎を第一会場に、大分市勢家の新川海岸県有地ほかを第二会場(本会場)にして、総経費約一四〇万円(協賛会費を含む)を費やして開催。大分市制十周年や新庁舎の完成と重なったとはいえ、当時大分県の人口が約八六万人の時に、会期中の入場者が約一〇〇万人もあり、戦前の大分県では最大のイベントとなりました。

第二会場中央広庭には、大噴水塔が建ち、その頂上には大分県出身の彫刻家朝倉文夫作の金色の大友宗麟像が燦然と輝いていました。

連合各県からの出品点数は四万六八一三点、出品人員は三万二七八八人で、そのうち地元大分県からの出品点数・人員はともに八県中最多であり、開催県としての意気込みが伺えます。

なお、大分県公文書館では、第一回を除く第十四回までの九州沖縄八県連合共進会関係の史料を所蔵しています。

第十四回九州沖縄八縣聯合 **共進會案内**

▣開會ノ趣旨

本會開會ノ要旨ハ聯合各縣ノ産業狀態ヲ江湖ニ紹介シ且ツ其ノ發展ニ資セントスルニアリ大戰以來世界各國産業勃興ノ氣運ニ鑑ミ我國産業發展ノ必要愈々切ナルモノアルヲ感ジ茲ニ大分縣主催ノ下ニ第十四回聯合共進會ヲ開催シ聯合各縣ノ出品ノミナラズ廣ク各地ヨリ參考品ノ出陳ヲ受ケ一目ノ下ニ全國ノ産業狀態ヲ描出セントス冀クバ大方ノ諸賢旣々敬觀覧ノ榮ヲ賜ヒ以テ殖産ノ振作國運ノ發展ニ資セラレンコトヲ

▣組織

長崎・福岡・大分・佐賀・熊本・宮崎・鹿兒島・沖縄ノ八縣聯合シテ本共進會ヲ組織シ諸官廳及全國各府縣朝鮮臺灣滿洲等ノ替同出品アリ

▣會期

期間　大正十年三月十五日ヨリ五月十三日迄六十日間

褒賞授與式　五月五日

▣主催及開催地

主催ハ大分縣ニシテ大分市ニ於テ開催ス

▣會場

第一會場　大分縣廳舍ヲ以テ之ニ充ツ(坪數一萬三千八百五十二坪)

大分縣ハ共進會開催ノ議起ルヤ縣廳舍改築ヲ決行シテ會場ノ一部ニ充當シ以テ其ノ利用ヲ認メ大正七年度ヨリ二ケ年ノ繼續事業トシ經費七拾餘萬圓ヲ投ジテ舊府内城址ノ一部ニ洋風二階建トシ階上階下ヲ以テ陳列場及休憩室トナセリ

第二會場　大分市大字勢家新川海岸一廓ノ地ヲ以テ之ニ充ツ

縣有地七千餘坪ヲ中心トシ四周ノ民有地ヲ借受ケ總面積五萬五千四百六十二坪正門ヨリ左右ニ聯合各縣賣店・東京・京都・名古屋・愛媛ヲ始メ各地ノ特産賣店アリ背後ニ各種興行館ヲ設ケ會場ノ正面ニ工業館右方ニ水産・林業・蠶糸・農業園藝・苗圃等左方ニ鑛業・機械・特許等ノ各館ヲ配列シ滿蒙・朝鮮・臺灣・美術等ノ各館ヲ各所ニ點設セリ要スルニ第二會場ハ本共進會ノ主體ニシテ場内ノ陳列裝飾美觀ヲ極メ加フルニ其ノ地ハ豐後灘澳白砂青松相連リ眺望絶佳會場内外ノ景趣正ニ一幅ノ名畫ニシテ正身自爽快ヲ覺エ氣宇濶然タルモノアリ

▣出品物

出品物ハ農業園藝、蠶糸業、林業狩獵、水産業、鑛業土石類、飲食品、染織工業、製作工業、化學工業、意匠圖案、特許品、參考品ノ十二部八拾九類トス

▣觀覧料並觀覧時間

觀覧料　觀覧人ハ一人毎ニ觀覧券ヲ携フルコト觀覧券ハ第一第二會場ヲ通ジ一人一枚金貳拾錢トシ夜間開場ノ入場券ハ金拾錢トス

但六歳未滿ノ者ハ觀覧券ヲ要セズ

觀覧料割引　學校生徒等ノ團體觀覧ノ場合及會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ割引ヲナシ又ハ無料トナスコトアリ

觀覧時間　毎日午前八時ヨリ午後四時迄トス但シ時宜ニ依リ時間ヲ伸縮シ又ハ臨時入場若クハ觀覧ヲ停止スルコトアルベシ

共進会案内資料

蔵書紹介

今年度、大分県立図書館より公文書(原本)六七冊、複製本三五四冊の計四二一冊が移管され、当館所蔵となりました。移管された史料のうち主なものとして、明治期の大分県の公衆衛生に関する「大分県衛生年報(明治十五年)」、「鶴崎町公文書(明治二六年水害関係書類を含む)」、大分県が成立してからの県行政の歩みを記録した「縣治概略(全二五冊)(明治四年～明治十二年)」等があります。

「縣治概略」につきましては、複製本を閲覧室に配架しておりますので、是非ご利用ください。

『縣治概略』　全２５冊

平成十九年度三館合同企画展

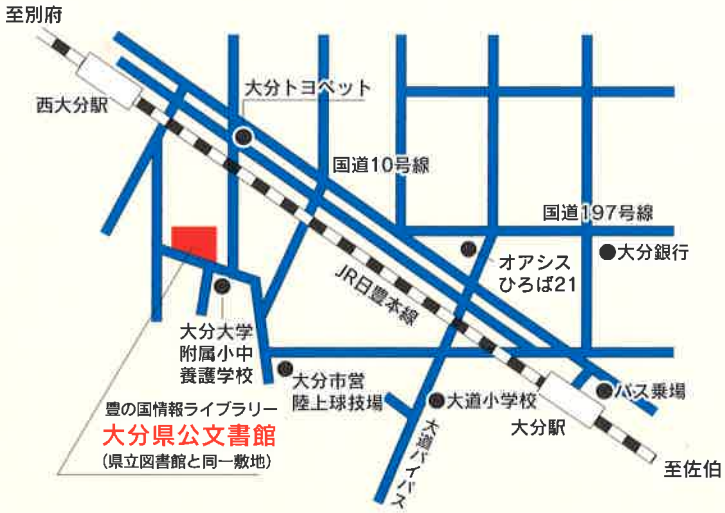
「豊の国のお宝史料」展

平成十九年十二月八日から同二〇年一月二七日まで、豊の国情報ライブラリー（県立図書館・先哲史料館・公文書館の総称）企画展「豊の国のお宝史料」が開催され、当館は明治九年から明治十二年にかけて在任した第二代大分県長官（知事）時代に大流行した『コレラ騒動』についてその発生から終息までの県行政の対応を当時の行政文書から展示紹介しました。また、近代殖産興業施策として、明治から大正期に亘って開催された『九州沖縄八県連合共進会』のうち大分県として二回目の開催となる大正十年の資料を紹介しました。今回のたよりのなかでその一部を紹介しています。

～利用案内～

利用時間
　午前９時～午後５時

休　館　日
　日曜日、月曜日、国民の祝日
　年末年始
　特別整理期間

編集・発行　大分県公文書館
〒870-0814　大分市駄原５８７－１
ＴＥＬ(代表)０９７－５４６－８８４０
(利用窓口)０９７－５４６－８８４４
ＦＡＸ　０９７－５４６－８８４９
http://www.pref.oita.jp/11103/
Ｅ－mail:a11103@pref.oita.lg.jp

案内図